

「南区社会福祉協議会 第2次地域福祉活動計画」

策定内容のご報告と ご意見の募集について

南区社会福祉協議会（以下「南区社協」という。）では、平成16年5月に、個性ある福祉のまちづくりを目指して、平成16～20年度の5ヶ年を計画期間とした第1次地域福祉活動計画（以下「第1次計画」という。）を策定しました。

この第1次計画をベースに、「関係機関の参加も得た個性ある第2次地域福祉活動計画〔計画期間：平成21年度～25年度〕（以下「第2次計画」という。）づくり」を目指して、地域住民や社会福祉施設等関係機関の協力のもと、平成20年3月から策定委員会・作業部会（以下、「作業部会等」という。）を開催し、平成21年5月の完成に向けて、第2次計画の策定を行っています。

この度、区民の皆さまに作業部会等におけるこれまでの策定内容のご報告をさせていただくとともに、今後の検討の参考にさせていただき、第2次計画をより良いものとしていくためのご意見を募集いたします。

南区社協 第2次計画(案)のご意見募集

裏面の南区社会福祉協議会 第2次地域福祉活動計画(案)をご覧ください、
皆さまのご意見をお聞かせください。

募集期間 平成21年**2月2日**(月)～**3月2日**(月)

募集方法 住所、氏名、電話番号及び「南区社協第2次計画(案)への意見」と明記のうえ、郵送・FAX・Eメール・ご持参のいずれかの方法でご提出ください。

(以上の個人情報は、意見の内容を確認させていただく場合のみ使用させていただきます。)

ご意見のご提出先 いずれも「南区社会福祉協議会 第2次計画あて」とし、
郵 送 〒457-0058 名古屋市南区前浜通3-10 南区役所庁舎4階
FAX **823-2688**
Eメール **minamiVC@nagoya-shakyo.or.jp**

※なお、いただきましたご意見については、議論の参考とさせていただくため、今後、作業部会等で公表させていただく場合があります。(個人が特定されるような情報は秘匿いたします。)
また、いただいたご意見に対して個別に回答をすることは予定しておりませんので、その点ご了承願います。

☆ホームページでも「策定内容のご報告とご意見の募集」をおこなっています。

<http://www.minamiku.net/shakyo>



南区社会福祉協議会 第2次地域福祉活動計画(案)

基本理念

『一人ひとりが尊重され、必要とされる社会の実現に向けて
～自立と自己実現の重視～』

基本計画 (3つの柱)

1. 地域で支えあう関係づくり
2. 多種多様な人材を活かした事業づくり
3. つながりができる仕組みづくり



☆これらの3つの柱をテーマとした作業部会で、それぞれのワーキンググループに分かれて検討しています。



1 『地域で支えあう関係づくり』のグループで検討している内容

誰でも気軽に参加してもらえるよう、楽しく参加してもらえるようなイベントで地域のつながりをつくり、核になる人や継続して協力してくれる人ができるよう働きかけていく。



誰もが関心をもっている『防災』について地域で考えていく。そのきっかけとして「防災ずきんづくり」を地域や学校、施設などに呼び掛けて、防災ずきんで地域をつないでいく。

自分の地域で活動している団体・グループを知る。例えば、学区ごとにある地域福祉推進協議会とその活動を広く住民に知ってもらえるような取り組みをおこなう。



2 『多種多様な人材を活かした事業づくり』のグループで検討している内容



男性がもっと地域活動に参加してもらえるような仕組みを考える。特にシニア層や若い父親世代などにいかに参加してもらえるかを視点に、イベントを開催するなど働きかけ方を考える。

世代間の交流をもっと広めるため、現在、幼稚園・保育園、学校、地域等で取り組まれている世代間交流事業を把握する。さらに、これらが協働してできるような働きかけをしていく。

趣味や特技のある人の把握をし、趣味等を活かした地域活動への参加を呼びかけ、地域活動の活性化につなげていく。「ボランティア」と構えずに関わってもらえるような働きかけ方も考える。



3 『つながりができる仕組みづくり』のグループで検討している内容

障がいがある人やその家族と地域との関わりや普段の交流について調査する。調査の結果を参考に、住民の交流の機会となる場を企画。企画の段階から住民にも関わってもらえるよう働きかける。



「トイレ貸します」や「広報に協力します」など地域活動や福祉の共通基準を設け、誰もが分かる目印をつくる。それを「福祉協力店(仮称)」として地域の店舗や施設に広めていく。

広報活動の充実について、本会の広報誌・HP等についてのモニター制の導入や他の広報機関との協働、広報誌にフリーページ(読者のページ)を設けるなど、効果的なPR方法について検討していく。